

左京薬剤師会会長賞

『かわいいそつ』の危険

京都市立明德小学校六年 高橋 夏瀬

あなたは、刑務所を出所した人が近所に引越してきたとき、何かされるかもしれない、怖いと思いますか？ きっと、怖いと思う人は多いと思います。

たしかに、刑務所に入っていたということは、なにか罪を犯したということです。そのような人たちが近くにいて、不安に感じるのは人間として当然の感情です。しかし、近所に住んでいる私たちが冷たく接してしまったり、避けたりしてしまうともう一度同じ罪を犯してしまいかもしれません。また、そもそも犯罪をしたことには何か私たちの知らない背景があったのかもしれない。

では、その人たちは「かわいいそつ」なのでしょう。いまは、そのような風潮が広まっているように感じます。しかし、私はそつは思えません。その理由は二つあります。

本当に受刑者の方たちは「かわいいそつ」な存在なのでしょう。それは、少し上から目線だと思っています。その人達を理解し、受け入れることは大切だと思います。けれど、この考え方は、相手を自分と対等な人間として見えない気がします。

また、皆さんは、悩みを話したときに、「かわいいそつ」と言われて違和感に思うことはないでしょうか。私はあります。最初はそれについて深く考えませんでした。しかし、しばらくした後どうして違和感に思うのか考えてみると、私はかわいいそつという言葉をかけてくれることで、「自分がかわいそつだと思われるのだ」と少し悲しさ、怒りを感じたからだに気づきました。

かわいいそつといわれることは、このようにプラスの面だけではなく、マ

イナスの面がとて多くあります。本当に、私たちは出所してきた方々に「かわいいそつ」といふべきなのでしょう。かわいいそつといわれることはもしかしたら再犯の原因になっていないのでしょうか。

とはいっても、実際に受刑者の方たちに会うことは多くありませんし、罪を犯した後ではもう遅いとも思えます。では、犯罪を防ぐために、私たちには何ができるのでしょうか。私は、身近な人から悩みを相談されたときに、かわいいそつという言葉を使わないようにするというのができると思います。かわいいそつという言葉は使いやすいですが、その代わり言葉を選ばずにしゃべっているような感じがしてしまいます。悩みを相談するということはとても勇気のいる行為です。そのようなときにいい加減な返事をされたと感じてしまうと、悩みを相談することが怖くなり、悩みをため込むようになってしまいかもしれません。言うまでもなく、このことは犯罪をしてしまう要因になりかねません。

私たち一人一人ができることは、決して多くはありません。一歩進むと言っても、一万歩あるうちの一步かもしれません。しかし、一歩進むことを一人の人がしたらどうでしょうか。それでも、できないのでしょうか。一人が出来る事には限界があります。しかし、たくさんの人と協力すればわかりません。私たちができることをして、さらにそのことを広めることができれば、間違いなく世界はよりよくなります。私は努力します。その努力が社会をより明るくできることを信じて。